

つまずきには、意味がある！

スポーツは、勝負の世界です。必ず勝者がいれば敗者がいます。また、スポーツは、誰もが勝つために努力を続けます。しかし、努力を重ねても満足いく成果や結果が出ず、失敗やつまずきを繰り返すこともあります。私は、部活動が教育の一環である意義とは、この失敗やつまずきに価値があると感じます。

例えば、数学であれば、答えには「正解」か「不正解」の2種類しかありません。言うなれば数学は、白黒はっきりした学びです。しかし、テストで×とされた答えの中には、完全な間違いもあれば、正解に近い×や興味深い考え方の×もあります。また、○の場合も、危うい○もあれば、普通の解き方と違うけど考え方の面白い○もあります。これを部活動に例えてみてください。

野球の練習試合、打席の結果が「ヒットなら良く、アウトなら悪い」とは判断されません。ヒットにもアウトにもいろいろな形があるからです。大切なのは、「ヒットかアウトか」という結果ではなく、打席の内容を振り返って自分でアウトになった原因を見つけ、次の打席や今後の改善に繋げることです。バスケットボールやバレーボールも、自分たちの力が発揮できていない勝ち方や次の試合につながる価値ある負け方がありテストの○×と一緒に考えます。

学校や塾でのテストは、いわば練習試合です。例え、点数が悪くても、しっかり振り返ることで、自分の弱点を見つけられ、本番（大学受験）に向かって克服する課題を発見する最良の材料であり、絶好の機会としなければなりません。このように本番の試合で勝つためには、練習試合や日々の練習からできるだけ多くのことを学ぶことが大切ではないかと思います。

私はそこで、「つまずきには意味がある」ことを皆さんにお伝えします。「失敗こそ面白い」この感性を身に付ければ、勉強も、部活動も、そして、友情や愛情、人との関わり方までも、「間違いや失敗」によって、あらたな気づきが生き方を豊かにしてくれるのではないかと思います。私も皆さんと同じように、今でも、日々、失敗を繰り返し、失敗という「引き出し」を経験値として大切にしています。そして、引き出しの数が増えることで、失敗を繰り返さないように努力する自分がいます。

■5月8日（月）運動系部活動の壮行会を開催しました。3年ぶりに全校生徒が一堂に会して全国大会や関東大会を目指す仲間を鼓舞しました。仲間の期待に忘れないとする笑顔の裏側には、きっと失敗したくない、つまずきたくない、そして「勝ちたい」との不安があるでしょう。でもよく考えてみると、絶対に失敗しない、負けない、そんな生き方は、かえって人らしくないのでは、と感じるのです。各部員が仲間の作った花道を歩くと、いよいよ始まる大会に向けて、「勝ちたい」意欲が学びの匂いとなって仲間の応援と共に体育館いっぱい溢れていました。

令和5年6月

